

がんばろう！東北平成30年3月9日
東北地方整備局 港湾空港部

東日本大震災から7年が経過する東北港湾の 復旧・復興やストック効果の現状を情報発信します

東日本大震災から7年が経過するにあたり、東北港湾の復旧・復興の取組み状況や各港湾・地域で現れ始めているストック効果等について、東北地方整備局 港湾空港部のホームページにて情報発信します。

本年3月11日(日)で東日本大震災から丸7年が経過いたします。甚大な被害を受けた東北太平洋側港湾では、関係行政機関や関係民間事業者、地元関係者等の協力を得ながら、災害復旧事業や復興事業等を強力に推進し、東北の復興に向け全力で取り組んで参りました。

残る釜石港湾口防波堤及び相馬港沖防波堤の災害復旧工事が本年3月末に完成予定で、これで東北地方整備局が直轄災害復旧事業で行っている主要な港湾施設の復旧が全て完了いたします。

港湾施設の復旧に伴って港湾利用も順次再開し、現在では東北全体の港湾取扱貨物量は震災前の水準までに回復し、コンテナ取扱個数も過去最高を更新しております。取扱貨物量の増加に対応し、航路便数の増加に加え新規航路も開設されています。また、震災前には東北管内ではあまり見られなかったクルーズ船の寄港回数も増加し、過去最高を更新しております。

港湾施設の復旧・復興に加え、復興道路・復興支援道路など高規格道路の整備も進捗していることから、港湾周辺で物流倉庫や工場、発電所などの企業立地が進んでおり、社会資本の総合的な整備によるストック効果が現れ始めております。

被災直後から太平洋側港湾が復旧するまでの間、日本海側港湾がバックアップ機能を果たしたことを踏まえて作成した東北港湾ビジョンに基づいて太平洋側港湾と日本海側港湾の2軸をフル活用する、安全・安心で活力ある東北地域づくりに必要な港湾整備を引き続き実施しております。

3月11日を迎えるにあたり、東北地方整備局港湾空港部では当部ホームページ内の特設サイトにおいて、これら7年間の取組みや効果等について情報発信いたします。

なお、東北地方整備局管内の港湾関係事務所ホームページにおいても、様々な復旧・復興の取組みを紹介しております。

是非、下記URLのリンクよりご覧下さい。

■東北地方整備局港湾空港部ホームページ

特設サイト【東北の港湾の復旧・復興状況～復興最前線～】

<http://www.pa.thr.mlit.go.jp/kakyoin/disaster/index.html>



【発表記者會】

宮城県政記者會、東北電力記者會、東北専門記者會

【問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部

クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 晴山 真澄、課長補佐 外久保 剛史

電話：022-716-0005 (直通)